

結果のまとめ

- UNSCEAR による推定甲状腺吸収線量は、理論的な計算による事故後 1 年間の推定値である。
- UNSCEAR による推定甲状腺吸収線量と甲状腺がん（疑いを含む）との関連については以下の通りであった。
 1. 先行検査（横断調査：6 歳～14 歳）において、UNSCEAR 2013 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められなかった。なお、線量が高くなるほど甲状腺がん（疑いを含む）発見率が高くなる関係（量反応関係）も認められなかった。UNSCEAR 2020 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析でも、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。
 2. 先行検査（横断調査：15 歳以上）において、UNSCEAR 2013 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。UNSCEAR 2020 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析でも、有意な関連は認められなかった。なお、性・年齢・検査年度を調整した場合において、線量が高くなるほど甲状腺がん（疑いを含む）発見率が低くなる有意な量反応関係が認められた（資料 1-2 図 2）。
 3. 本格検査（検査 2 回目）（横断調査：6 歳～14 歳）において、UNSCEAR 2013 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。UNSCEAR 2020 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析では、第 1 四分位の群に比べて第 3 四分位の群で性・年齢を調整したオッズ比と、性・年齢・検査年度を調整したオッズ比が有意に高かった（資料 1-2 図 3）。なお、量反応関係は認められなかった。
 4. 本格検査（検査 2 回目）（横断調査：15 歳以上）において、UNSCEAR 2013 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められなかった。なお、性・年齢・検査年度・検査間隔を調整した場合において、線量が高くなるほど甲状腺がん（疑いを含む）発見率が低くなる有意な量反応関係が認められた（資料 1-1 図 4）。UNSCEAR 2020 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。
 5. 本格検査（検査 3 回目）（横断調査：6 歳～14 歳）において、UNSCEAR 2013 の

推定線量に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。UNSCEAR 2020 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析でも、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。

6. 本格検査（検査 3 回目）（横断調査：15 歳以上）において、UNSCEAR 2013 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析では、悪性・悪性疑い発見数が少ないため、オッズ比の算出はできなかった。UNSCEAR 2020 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析でも同様に、悪性・悪性疑い発見数が少ないため、オッズ比の算出はできなかった。
7. 本格検査（縦断調査：6 歳～14 歳）において、UNSCEAR 2013 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。UNSCEAR 2020 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析では、第 1 四分位の群に比べて、第 3 四分位の群で性・年齢・検査年度を調整したオッズ比と性・年齢・検査年度・検査間隔を調整したオッズ比が、また第 4 四分位の群で性・年齢・検査年度・検査間隔を調整したオッズ比が有意に高かった（資料 1-4 図 1）。なお、量反応関係は認められなかった。
8. 本格検査（縦断調査：15 歳以上）において、UNSCEAR 2013 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。UNSCEAR 2020 の推定線量に基づいて四分位に分類した解析でも、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。